

**テーマ：**人間・社会・都市と大気のかかわり

**関連の深いコース：**環境サイエンスコース、ローカル・サステイナビリティコース

### 1. このテーマを学ぶために

大気の動き方は地球全体にわたる大スケールの変動から、私たちの身の回りで発生するような小さなスケールのものまで豊かな表情をもっています。私たちが大気の動きを意識するのは、一つは心地よいと感じるときでしょう。たとえば、森や林を抜けてきた新鮮な風や夏の夕方に吹く涼風など、大気そのものの清々しさを直接感じる時です。同時に、風が駆け抜ける時のサラサラとした音や風鈴が奏でる音を聞いたときの聴覚的な快適さ、窓のカーテンが風でそよぐのを見たときの穏やかさや、鯉のぼりが泳ぐ風景を見たときに感じる伸びやかさなどの視覚的な快適さもあります。また、大気は水とならんで地形や景観を作るので、これらも視覚的な快適さの一種です。さらに、ファンによって茶畑を霜害から防ぐなどの農産安定化、あるいは風力エネルギーによる作業や発電など、人は大気を巧みに利用しており、これらは間接的な快適さと言えるでしょう。

大気の動きを意識するもう一つのケースは、逆に、不快や危険を感じる時です。冬の夜に北風の中を歩いていると体熱が奪われ、皮膚温度が下がって早く家に帰りたと思いますし、肌は乾燥します。また、強風で破壊された看板が飛来してケガをしたり、高速道路で自動車を運転中に強い横風を受けてハンドルをとられてパニックに陥り、事故に至ることもあります。ビル風などは訴訟になったこともあります。さらに、大気は汚染物質や病原菌を輸送したり、都市のヒートアイランド現象の媒体となったり、台風や竜巻のような恐ろしい姿となって人や街、交通・物流、農作物に牙をむきます。

以上のように人の生活は大気と密接な関係があり、古来より人は、あるときは大気を利用する方法を考え、あるときは災害や公害という形で叩きのめされては立ち上がり、またあるときは、その脅威から自らを守ったり損害を軽減する技術を考えて法律にも反映させてきました。大気と人との付き合い方は国や地域によっても異なり、昔から変わらないものもあれば時代の変化に応じて変わってきたものもあり、多種多様です。さらに、地球規模から都市・地域規模にいたるまで、大気は環境問題の中心的な位置づけにあります。大気の動きと人との関わりを知り、考えてゆくことは基礎的かつ分野横断型のテーマと言えるでしょう。

### 2. テーマに関連した推奨科目

大気と社会 I・II	環境法 I～III	都市環境論 I・II	自然環境論 I
エネルギー論 II	環境科学 I・II	環境管理論 II	自然災害論
気候変動論 I・II			